

輝け田底っ子

第54号

文責：校長 益永 一幸

6年生と仲良く・楽しく遊ぼう

6年生は下学年への感謝の気持ちを表し楽しい思い出を作るために、下学年と一緒に遊ぶ計画を立てました。今週の昼休み時間がその時間となり、「けいどろ」「ドッジボール」「サッカー」などをしていました。6年生も下学年も一緒に楽しく遊んでいて、田底小ならではのほのぼのとした情景でした。

また、6年生は卒業まで残り3週間を切りました。卒業式の練習も行っています。体育館が使用できないので、ホールを体育館に見立てて練習をしています。6年生には、これから1日1日を大切に、「感謝」の気持ちで学校生活を送ってほしいです。



3月学校集会 校長講話 「礼」について

校長先生は、小学校4年生から剣道を始めて57歳の今まで47年間剣道をしてきました。最初は勝ちにこだわっていて、勝ったらうれしくてニコニコ顔、負けると悔しい表情をよく顔に出していました。でも、子どもたちに指導をするようになって、少し考え方が変わってきました。

それは、「剣道は勝ち負けよりも大切なことがある」ということです。それは、「礼」あるいは「礼儀」ということです。剣道は「礼に始まり礼に終わる」と言われます。それだけ「礼」「礼儀」を大切にしていることなのですが、実際に「礼」をする場面がたくさんあります。まず、道場に入る時。稽古や試合を行う道場は神聖な場所と考えます。それは、道場があるから稽古ができるという感謝の気持ちから生まれるものです。ですから、道場に入る時は「お願いします」と言って約30度深い礼をします。次に、稽古を始める時、先生を前にして並んで座り、黙想と礼をします。稽古を始める時は、①正面に礼、②先生方に礼、③お互いに礼、の順番で礼をします。稽古中は、相手が変わるたびに「お願いします」「ありがとうございました」と言ってお互いに礼をします。稽古が終わって最後に道場を出る時にも、「ありがとうございました」と言って深い礼をします。大事なものは「礼」をする形だけ行っていればよいわけではないということです。これらは全て、稽古ができる場所や相手に対する感謝の気持ち、教えてくださる先生方への感謝の気持ちの表れです。

また、剣道では「ガッツポーズ」は禁止です。一本取ってもガッツポーズをしたことによって、一本が取り消されることもあります。それは、自分が勝ってうれしい反面、相手は悔しい思いをしているはずです。そんな相手への心遣いが、剣道の「礼」の精神としてルールになっています。

校長先生が大学生の時の師範の先生から教わった剣道の格言があります。「打って反省、打たれて感謝」。相手から一本取ってうれしがっているようではいけない。取った一本がもっといい一本になるように反省しなさい。一本取られたら悔しいだけではいけない。一本取られたことによって、自分の弱いところを教えてくれた相手に感謝しなさい。という教えです。これも校長先生が大事にしている「礼」になります。